

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:11月6日(木)

会場:みわ文化センター

参加者数:17人(オンライン9人)

◎テーマ①:防犯対策の推進

【趣旨説明(三和町自治連合会)】

三和町では、ネットワーク会議を開催し、いろいろな情報交換をしている。その中で、詐欺が増加し、過去最悪の状況であることを聞いた。貴金属の買取り業者が、高齢者宅へ入り勝手に物色をしたり、不審な廃品回収業者の話も聞く。少子高齢化や空き家の増加により、高齢者が犯罪に巻き込まれることを懸念している。市としても警察と連携し、私たちが安心して暮らせるよう推進してほしい。

参加者の発言	市の発言	備考
三和町では、ネットワーク会議を開催し、いろいろな情報交換をしている。その中で、詐欺が増加し、過去最悪の状況であることを聞いた。貴金属の買取り業者が、高齢者宅へ入り勝手に物色をしたり、不審な廃品回収業者の話も聞く。少子高齢化や空き家の増加により、高齢者が犯罪に巻き込まれることを懸念している。市としても警察と連携し、私たちが安心して暮らせるよう推進してほしい。	<ul style="list-style-type: none">・手口が巧妙になってきている。市では、SNSや出前講座で啓発しているが、引き続き、最新の情報や防止策等について啓発していく。警察とは常に連携している。少しでも不審なことがあれば警察や市へ相談し、ご自身を守ってほしい。・危機管理課へ警察職員を派遣していただいております。常に警察と連携している。ゴミ収集事業者と連携協定を締結し、ゴミ収集車にカメラを搭載し見守り体制を整えている。コンビニなどの防犯カメラも、犯罪の抑止力につながる。警察と連携し、防犯カメラを活用させていただくことも可能である。詐欺が横行しているので、情報発信を行い、啓発につなげていく。何かあれば、いつでも連絡してほしい。	

開催日:11月6日(木)

会場:みわ文化センター

参加者数:17人(オンライン9人)

◎テーマ②: 多様なつながりを活かした地域づくり

【趣旨説明(三和町自治連合会)】

世代を超え、交流を深めていけるような、地域づくりをしてはどうか。あわせて、三和町内だけでなく、市内の各地域や近隣市町とも連携してはどうか。みわ文化センターのホールでのイベントでは、人口減少や高齢化により地元住民だけでは席が埋まらない。近隣市町からも来ていただき、イベントを盛り上げていきたい。関係人口を増やし、多様なつながりを生かした地域づくりについて議論したい。

参加者の発言	市の発言	備考
<p>常会の中には、広報紙を配布していない地域もある。地域での寄附や公衆衛生費用の負担をせず、一斉清掃にも参加しない人がいる。常会も開かない地域があると聞く。隣りに住んでいる人もわからないような希薄な地域になっている。人間関係ができていないので、情報交換もなく、人づくりが難しい時代である。犯罪が起こるのではないかと危惧する。</p>	<p>—</p>	
<p>・三和地区では、甲田駅を活用する人が多い、三次市街地へのバスはあるが、安芸高田市の甲田駅へのバスはない。行く手段が自家用車しかないため、芸備線を利用しなくなる。芸備線の存続のために、何か取組はできないのか。</p> <p>・路線バスを甲田に行くようにできないのか。</p>	<p>・三和地区が甲田町と交流があることは承知している。三和地区からお勤めの方が甲田駅付近に住居を借りていると聞く。今は、公共交通を利用しようとする、志和地域の路線バスしかない。安芸高田市などと連携し、国道54号を通るバスはあるが、甲田町は通らない。パーク&ライドの取組を進め、最寄りの駅まで車で行って、JRで通勤や病院に通ってもらうなど、利用促進を図りたい。</p> <p>・通学利用であれば、検討していかなければならない。三次市と安芸高田市で協議し、バス事業者の選定など、議論を重ねる必要がある。引き続き、研究していく。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:11月6日(木)

会場:みわ文化センター

参加者数:17人(オンライン9人)

◎その他

参加者の発言	市の発言	備考
<p>小・中学校のあり方に関する基本方針について聞きたい。三和中学校が2年後になくなる。三和小学校もなくなり、地域から活気がなくなってしまうことを危惧している。若い人も小・中学校がなくなれば、三和地区に戻らなくなる。三和地区に住んでいる家庭も、遠くの学校に通わせることに不安を抱き、三和地区を離れる要因となる。地域の人がどう考えているのか聞いてみたい。</p>	<p>学校の再配置について、令和5年度に子どもや保護者にアンケートを実施した。一定数の人数が必要であり、友達という声が多い。小学校は1学年10人以上を目安とし、中学校は2クラス以上を目安としている。小・中学校は成長の段階であり、いろいろな人間関係を幅広く持ち、やりたいことができる環境にしていこうと策定委員会で決まった。学校は教育施設であり、子どもたちが自立していく場であることを第一に取組を進めている。三和小学校は、継続していくが、中学校は塩町中学校との再配置を行い、多様なト・モノ・コトと出会う環境をつくっていく。先日も、大土山のことが報道されたが、地域の学びが子どもたちの根っこになる。再配置後は、塩町の子どもたちが三和の文化や伝統を学ぶなど、自分の住む地域とは違う地域のことを学ぶことができ、学びの幅も広がる。通学手段も整え、安全・安心に通えるよう、保護者に説明している。子どもたちと地域との関わり合いはこれからも続いていく。学校でできる取組は続けていき、未来志向で子どもたちの成長や三次を創る教育をしていく。</p>	
<p>小学校を無くすことはやめてほしい。小学校が無くなれば、地域のつながりがなくなる。中学校が、塩町中学校と統合することはいいと思う。仲はいいが、クラス替えがなく、競争がない。クラス替えができるだけの人数は必要である。</p>		
<p>小規模特認校について説明してほしい。三和小学校は小規模特認校として残せるのか。</p>	<p>小規模特認校とは、集団の中ではなじめないが、少人数であれば、自分らしさを発揮でき、安心して通える子や、自分のペースで勉強ができるようになる子を対象とした小学校を想定している。今ある小学校が少人数になったら小規模特認校になるわけではない。市内の全ての子どもが自分に合った学びの場を選べる環境を整備する。</p>	
<p>・大土山を元気にする会は、約40人の会員があり、10年間継続して活動している。毎年、三和小学校6年生や中学生を対象に登山学習をしてもらっている。地域と関わりながら、地域の自然や文化について学習しながら成長している。 ・大谷の稲刈りに来ていただき、感謝している。 ・三和地区の未来を考えた際に、地域の核となる学校がなくなることは寂しい。地域に対する学校再編の情報があまりなかった。10人以下の子どもを教育することは大変かもしれないが、何か違う方法があるのではないか。子どもたちが多ければ、いじめや不登校も起きやすくなるのではないか。地域と、子どもたちの教育に関して話し合う場を設けてほしい。大きな展望に立って、まちづくりを考えてほしい。</p>	<p>まだ十分に情報を伝え切れていないことはお詫言する。保護者や地域の皆さんなどの情報交換を丁寧に継続していく。国の示す基本方針で、小学校が1学年2から3学級、中学校が4から6学級が標準とされており、三次市では、八次小学校と十日市小学校のみ標準規模である。その他は、すべて小規模校である。三次市の良さは、広い地域であっても、人と人がつながっていることである。この三次の良さを生かし、学校教育に取り込みながら進めていく。現在、君田中学校と三次中学校の再配置に向けて取組を進めている。オンラインも含め、週に1回程度の交流や合同授業などを行っている。こうした事前の連携を丁寧に進め、いじめや不登校が絶対にならないようにしていく。</p>	
<p>三良坂地区は住宅街に、酒屋地区はスポーツ・観光地に位置付けられている。その場合、三和地区は三次市の中で、どのような展望を持っているのか。</p>	<p>三次市は特徴ある地域が多い。三良坂地区では、若い人が家を建てて定住されている。チーズや豆腐、カフェなど食を通じて活性化している。酒屋地区は、工業団地や運動公園、人が集まる観光地などが特徴である。三和地区では、三和地区の特徴を生かして、農業体験や酒造会社を活用したツアーなど、地域の資源に触れる取組が広がってきている。三和地区の特徴を伸ばして、その特徴を生かして地域づくりをしていくことが地域の活性化につながる。引き続き、皆さんと一緒に考えていく。</p>	